山田大名行列の風景画を描いたはせがわさん(中央)と津谷小の6年生ら

「山田大名行列」鮮やか

画家はせがわさん、津谷小に贈る

気仙沼

東日本大震災の被災地で支援活動を続ける会津若松市出身の画家はせがわいさおさん(70)＝さいたま市＝による「アート壁紙」の寄贈式が24日、気仙沼市本吉町の津谷小(児童187人)であり、地元の伝統行事「山田大名行列」を描いた作品が披露された。

山田大名行列は200年以上続く市の無形民俗文化財。3年ごとに行われ、今秋は開催年に当たる。児童の昇降口に掲示された縦1・5㍍、横2・5㍍の作品には、収穫を終えた田園風景と華やかな衣装をまとって100人以上が練り歩く様子が描かれている。

はせがわさんは震災後、家族と本吉町などを訪れ、自作の紙芝居を使って保育所や幼稚園、仮設住宅を慰問。「奇跡の一本松」「気仙沼湾」など温かみのある風景画も制作し、全国に伝える活動を重ねてきた。

全校児童が体育館に集まった寄贈式で、はせがわさんは「(震災後の2012年に)大名行列を見て、大切にしたい古里の姿を感じた。原風景を未来に残してほしい」と呼びかけた。

児童代表の6年岩渕麗杏(れあ)さん(11)は「毎日絵を見て地域の伝統文化を感じ、次の世代に受け継ぎたい」と感謝の言葉を述べた。